

白洲次郎の山荘 復元へ

山形・蔵王温泉の「ヒュッテ・ヤレン」

日本国憲法の草案作成に携わり、東北電力初代会長を務めた故白洲次郎が山形市蔵王温泉スキー場に所有していた山荘「ヒュッテ・ヤレン」を、復元・保存する動きがある。東京のNPO法人「元氣・まちネット」代表理事で戸沢村出身の矢口正武さん(64)「東京都渋谷区」が仲間の建築家とともに建物を調査した結果、創建当時のユニークな姿が明らかになった。観光資源として魅力を高めるため改装費などの募金活動を展開する計画だ。

戸沢出身の矢口さん 建築家と構造調査

白洲は1951(昭和26)年、59年に東北電力会長を務め、蔵王が気に入って山荘を建てたとされる。その後所有権は移り、ホテル建設に伴って土台ごと近くに移動した。木造2階建てで2階に玄関とカウンター付きの台所兼居間があり、1階は二段ベッドを置いた小さな寝室3部屋など。

山荘を観光に生かそうと地元関係者が2006年に「白洲次郎を語る山形の会」を結成。昨年は蔵王温泉観光協会が山荘敷地内に説明看板を立てた。

矢口さんと都内の建築家らが、ことし8月から3回にわたり建物の構造などを調査。外気を入れて冷やす天然の冷蔵庫や、雨戸と2重のガラス窓による寒さ対策、丸ノブが多かった当時としては珍し

ヒュッテ・ヤレンの建物内部を調査する矢口正武さん(左)と建築家たち
=9月、山形市

魅力ある観光資源に

いレバー式のドアノブといった独特の仕様を確認した。

土地を提供した旅館の関係者によると建てられたのは51年。温泉街のお年寄りの話から、創建当時は1階が仕切られておらず暖炉のあるリビングになっていたことが分かった。外壁は現在ボードが張られているが、白壁だった可能性もあるという。

矢口さんは東京で現在の所有者と面談し保存運動について承諾を得る一方、県内では「語る会」や蔵王温泉、東北電力の関係者などに呼び掛け、内部の公開も視野に復元・保存を目指している。

矢口さんが勤務していた日本技術開発の社長だった故永山時雄氏は、白洲が通商産業省を創設した際、官房長に抜てきされ右腕として働いた。「蔵王は長年スキーを楽しんできたホームゲレンデでもあり、ライフワークとしてヒュッテ・ヤレンの保存に取り組みたい」と矢口さんは話す。

「まちネット」は12月10日午後1時半から、山形市の蔵王体育館で「旧白洲次郎山荘と蔵王を語るミニフォーラム」を開く。

白洲次郎氏(しらす・じろつ、1902〜85年) 兵庫県出身。吉田茂元首相の側近として戦後の混乱期に活躍した。終戦連絡中央事務局次長として日本国憲法の草案作成に尽力。GHQ(連合国総司令部)と渡り合い「従順ならざる唯一の日本人」と言われた。貿易庁の初代長官となり、商工省を改組して通商産業省を設立。東北電力の初代会長も務めた。

